

13/10/10 (日) 演武会 感想 提出→下石真里江

私は当日を楽しみにしていた。何故なら去年、私は演武に出場せず、客として演武を見ていたからである。当時、習っていたの私はあんな板が本当にわかるのだろうかと思っていたわけでもないのに、ドキドキしていたのを今でも鮮明に思い出す事ができる。

ステージに立った時、それ以上に緊張した。今までにも行事や前の習い事でステージに立った事はあるが、お客さん一人一人の表情が見え親を見付けらる程近いのは初めてだ。目をしっかりゆくり深呼吸をして自分のやるべき事を思い出すと少し落ち着いた。私のやらなくてはいけない事は3つあった。

1つ目は少年部の板をもち、2つ目は自分自身が板を割ること、3つ目はしょうやのかわらを用意することである。

まず最初に少年部の板を持った。少年部の子は大人に比べて力が弱い。その為、できるだけ力が伝わりやすいように持たなくてはならない。

私の他に翔太としょうやの2も持ち手であり、

どの様に持てば良いのかと、少年部の子が割れなかった時、あせってしまった。みんながしやうやの性格をなおしていきなさい。

少年部の子の演武を見て、自分の板割りのイメージトレーニングをしていた。

私がやるのは直突キやカキ突キ。一番単純で力が伝わりやすいからこそ、絶対に失敗できない、成功させると意気込んで朝からミットで練習を重ねていた。ポイントはいくつかある。1つ目は腰を入れること 2つ目は全身から勢いをつけること 3つ目は気合をわすれない最後に構えること。

イメージトレーニングをしていた為か、少年部の板を持つために前に出てた為か、あまり固らなかつた。

それ所か前には立って頭がスーッとほれていった。  
結果から言うと板は2枚とも一発で割れる事が  
出来た。拳は痛かったけれど、成功したという  
達成感でいっぱいになった。板を一枚割った  
だけではあるけれど自分の中では何らかの力を  
越えることが出来たと思う。

私達の後にはしょうやと翔太の演武があった。  
2人は私よりも幼いはずなのに、やはり先輩  
はカッコよくて、たくましかった。凄いなあ...と  
思いながら、いつかはあんな風に誰かに  
あこがれられるような先輩になりたいと感じた。  
演武は見ているだけでも面白いけれど、出場するから  
こそ得られるものもあると思う。だから来年も  
出たいと感じたし、今回出ていない人にも是非  
出場して欲しい。